

支援者による報告2 -

## デイケアプログラムにおける役割分担の重要性

### ～映画委員会の活動を通して～

医療法人耕仁会札幌太田病院 2階デイケア課  
大熊扶美子 亀井千賀子 渋谷武 石崎直樹 山下佳代子  
北島朝子 小野修一 大西直拓 太田秀造

#### 1. はじめに

当院の思春期対象デイケアは平成13年に開設し、登録数(平成21年4月現在)は129名(男性71名、女性58名)、平均年齢39.8歳、SD = ±11.64(15~76歳)である。通所者の疾患は、気分障害、ひきこもり、摂食障害、統合失調症など様々である。これらの症状に対し、残存機能の維持、向上、進学・就労支援など、社会復帰を目的とした柔軟なプログラムを展開している。

プログラムは、仲間作りや趣味活動を通し、通所者による9つの委員会で構成されている。今回、保清や金銭管理、就労を目的とした「映画委員会」の活動経過を報告する。

#### 2. 映画委員の構成

男性5名、女性3名の計8名。平均年齢34.5歳、統合失調症5名、気分障害2名、不安障害1名。

#### 3. 活動内容

企画：毎週金曜日にミーティングを行い、上映映画の決定や情報収集、映画紹介のポスター作成、案内文作成、上映当日の担当者を決める。

広報活動：ポスターの貼り出し、朝や帰りの会で上映映画の案内を行う。

上映映画のレンタル：レンタルショップにDVDを借りに出かける。

映画鑑賞(毎週)：委員が主体となり会場作りや呼びかけ、機械操作から片づけまで全ての行程を行う。

グループワーク：企画や当日の運営についての反省会。良かった点、悪かった点、担当役割の報告、参加状況、参加者の要望について話し合う。

上記について、委員全員に役割を分担している。何らかの理由で役割が遂行できない場合、自分で代役を見つけ他の委員に依頼する。必要に応じて職員が支援する。

## 支援者による報告2 -

### 4. 活動経過

発足当初、職員の指示を待ち、受身的傾向があった。ミーティング、作業を重ね、次第に、各々の特性を活かした役割分担が発生し、能動的な活動に変化した。また、映画を楽しむ目的から、鑑賞会に参加する通所者のニーズに視点が向き、投票箱を作りアンケート調査し、鑑賞環境にも配慮するなど、参加者を増やすための努力が見られるようになった。

### 5. 活動を通しての参加者の変化

A氏、20代男性、気分障害。昼夜逆転の生活が続き、デイケアにはいつも遅刻していた。自分の気持ちを相手に上手く伝えられず、イライラ・被害感から職員、通所者への暴力、自傷行為を呈し、入退院を繰り返した。パソコンが得意なため、映画委員会ではインターネットを利用した情報収集を担当した。収集した情報を、他委員に伝達しなければならない責任感が生じ、ミーティングに参加するため徐々にデイケアの遅刻が減った。他委員の役割を見て、「それまでは他人の欠点に目がいきがちであった。今は長所に注目できるようになり、柔軟に他人を受け入れられるようになった」と語り、肯定的な変化が見られた。

### 6. まとめ

当院デイケアでは、治療を～期に分類し、段階的支援を継続している(期：通所になれ、自分の調子の悪さやニーズに気付く。期：対人交流、ニーズの充足を学ぶ。期：社会復帰に向けて他者貢献)。就労・進学を目指す通所者の～期では、ストレスの軽減、回避による症状の安定に留まらず、委員会活動遂行の責任感を持ち、適度な心理的負荷が重要と考える。意欲、自信の向上を高め、主体性、協調性を養う機会となる。参加者は「皆と協力して物事を達成していく過程が楽しい」、「作業の遂行が自信になっている」、「自分たちの企画により、他の人が喜んでくれることが嬉しい」などの意見を述べ、ボランティア、就労意欲に繋がり、期治療の導入を安易にする。一方、精神的負担から、症状が不安定になる通所者も見られ、導入時期、各人の成長、役割に合わせた支援が必要である。デイケアでは、毎日多くの通所者が利用するが、個人の持つ長所が発揮出来るプログラム活動が最も重要と考える。今後も、通所者の希望に添いながら創意工夫しつつ、より質の高い支援を継続したい。